

しさを感じるといった、複雑な気持ちであった。

現在、やさしい祖母の存在と、好きな野球へエネルギーを向けていることから、問題は顕在化していないが、適切な指導援助がなされないならば「不良交友」などの問題が予測される。

5 予防仮説

本人の持つ高いエネルギーを、部活動だけでなく、学級へも向けさせることによって、集団での存在感を高めるように指導援助する。

【学級での予防援助】

○「学級での活動の場」を与え、担任がK男とともに努力する姿勢を見せることによって、学級の一員としての自覚を持たせる。

○「団結する学級づくり」を心がけ、雰囲気明るくし、K男にとっても魅力ある学級にする。

【部活動での予防援助】

○部活動顧問との連携を強化し、チームワークの大切さや、練習を通じた耐性などはぐくむ。

【家庭（母親を中心として）での予防援助】

○母親とのラポールを形成し、母親がK男の良い点を認めて、意欲づけを図るような言動ができるように援助する。

6 予防援助の過程

学級担任は、前年度にはK男の教科担当だったため、ある程度の情報や予備知識はあった。

そのため、前学級担任との話や既存の資料、心理検査などの情報収集と並行して、まず、必要と思われる「本人とのラポール形成」から予防援助を開始した。

〔4月〕ラポール形成と学級での活動の場の設定

新学級編成の発表後、教室前の廊下で、K男に声をかけてみた。

担任「K男君、よろしくな！」

K男「先生のクラスだったんですね・・・」

担任「イヤだったのかな？」

K男「いや、ちょっと・・・。バカやってはいら

れないかなと思って・・・」

担任「いろいろバカをやってみない？」

K男「そういうわけではないけど・・・。授業でしか先生のこと分からなかったけど、厳しいんじゃないかと思って・・・」

K男にとって、厳しい理科担当の先生というイメージしかないのは分かるが、意外にも、素直な面があることを伺うことができた。

さしあたって、K男の目が部活動だけに向いている状態を改善するため、学級での活動の場を与えることにした。

担任「K男君は野球の守備がうまいんだってね。」

もっともスポーツ万能らしいけど・・・」

K男「いやー。でも野球だけは自信あるんだ。」

担任「学級も校内陸上大会では優勝をねらいたいね。そのためにも体育委員やってくれないかな？ 推薦はM男君がしてくれるからね。」

K男「えーっ！ おれが？」

担任「適任だと思うけどな？」

しぶっていたが、翌日にはK男は快諾し、予定どおりM男たちの推薦で体育委員に選出された。

放課後、教室で各係の打ち合わせをした。

N子「ロッカーの名札貼りはどうしますか？」

担任「急がなくちなあ。君の係でやる？」

N子「私は部活動の顔合わせの日だし・・・」

担任「K男君は係が違うしなあ・・・」

K男「じゃあ、おれ暇だし、やるっきゃないか。」

結局、担当係ではないK男が、一人で慣れないゴム印を押し、ロッカーと下足置場に名札を貼った。翌日、学級でそのことを全員に紹介すると、K男は気恥ずかしいような表情をしていた。

しかし、各教科担任の話では、やる気のない授業態度には変化がなかった。

〔5月〕学級での存在感を高揚

学級の雰囲気を改善するための資料収集と、K男自身の性格傾向を知りたいという二つの理由から、全員にYG性格検査を実施した。

校内陸上大会を二週間後に控えたある日、K男は、学級の種目別出場選手を話し合いの中心となって決定した。自分はみんなが嫌がるハードル走に